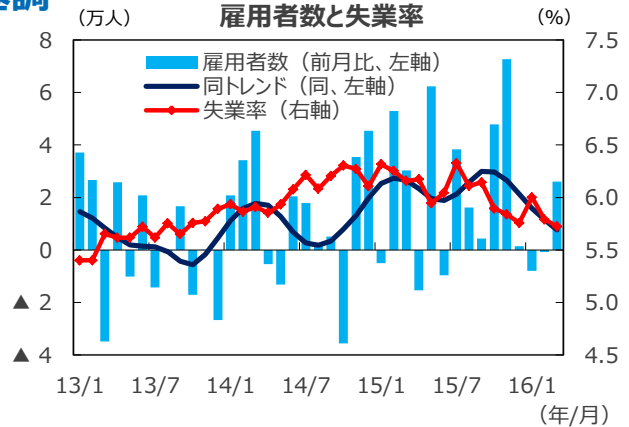


## 今日のトピック 最近の指標から見る豪州経済（2016年4月）

# 緩やかな景気拡大：株式、為替ともに底堅く推移しよう

### ポイント1 労働市場は緩やかな改善基調 家計セクターは底堅く推移

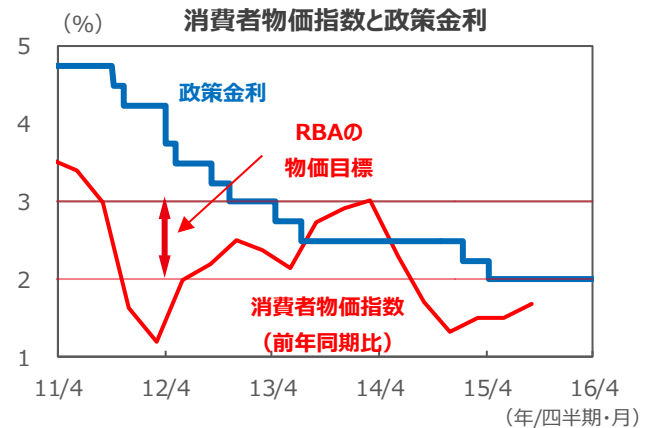
- 2016年3月の雇用者数は前月比2.6万人の増加となりました。雇用統計は月ごとの変動が激しいため、変動を均した政府公表のトレンド値を見ると、3月は同+0.8万人でした。前月の+1.2万人からは鈍化しましたが、企業マインドが改善していることから、今後、雇用の勢いは再び強まる見込みです。一方、失業率は同0.1%ポイント低下の5.7%でした。
- 雇用の改善を背景に、小売売上高は前年同月比+4%前後の伸びを維持しています。家計セクターは底堅く推移しています。



(注) データ期間は2013年1月～2016年3月。トレンドは政府公表値。  
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 物価は低位で推移 政策金利は当面、据え置き

- 15年10-12月期の消費者物価上昇率は、前年同期比+1.7%でした。前期の同+1.5%からは加速しましたが、豪州準備銀行（RBA）の目標である+2%～+3%の下限を下回っています。
- RBAは4月5日に開催された会合で、政策金利を2.0%に据え置きました。インフレが目標を下回りながらも労働市場が回復しているため、政策金利は当面、据え置かれると見込まれます。ただし、金融市場の動向次第では、利下げに踏み切る可能性があることには注意が必要です。



(注) 消費者物価指数は2011年4-6月期～2015年10-12月期。  
政策金利は2011年4月30日～2016年4月21日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 緩やかな景気拡大を背景に、株式、為替とも底堅い展開へ

- 豪州経済は、雇用の改善による個人消費の堅調さを支えに、緩やかな拡大を続けると予想されます。物価の低位安定、資源価格の持ち直しを合わせて考えると、豪州株は底堅く推移すると見られます。
- 中国経済をめぐる不透明感が払拭されるにつれて、豪ドルの対円レートは徐々に落ち着きを取り戻してきました。中長期では日豪金利差の拡大などから、底堅く推移する見通しです。

ここもチェック! 2016年4月20日 資源価格の動向  
2016年4月 5日 豪中銀、前回に続き政策金利を据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。